

2013.7.7 たすく株式会社 主催

# 教材マスターの集い MAX

## 実践報告書



Case: れおくん

個別支援学級・小学6年生

*J☆sKep 2.6*

**TASU**   
For Challenged Children



copyright since 2008 TASUC. ALL RIGHT RESERVED.

文章や、写真の転載，研究会等での無断使用はお止めください。

著作権は，ご本人と，たすく株式会社が保持しています。

[スライド1]

## プレゼンター

<発表者> ブーミンさん

---

<お名前> れおくん

---

<学 校> 小学校 個別支援学級

---

<学 年> 6年



http://tasuc.com

息子は現在小学校の個別支援学級に通う6年です。

今日は主に、PerceptionとJudgmentに注目してご紹介します。

しっかり見て、情報を処理させるということに取り組んできました。

[スライド2]

## れお くんの様子

<1年前>

- ・視点が定まらず、視覚的な情報を得ることが苦手。
- ・視覚機能高めすることにトライ
- ・J☆sKep2.6 指示理解・セルフマネージメント・注視物の選択に注目
- ・聞き取った言葉を頭に留め置くことが苦手。

↓

- ・情報が処理しきれず、手が出てしまう



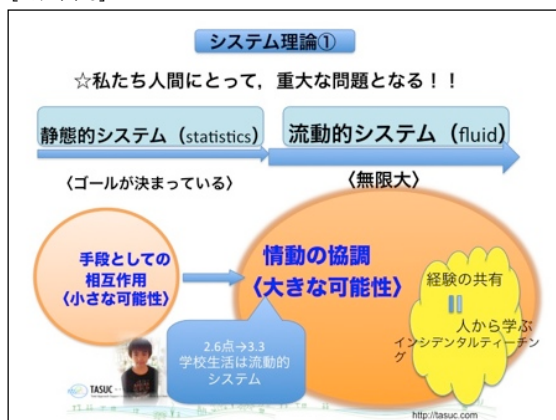
http://tasuc.com

[スライド2]

【一年前は】

- ・視点が定まらず、視覚的な情報を得ることが苦手でしたので、必要なときに必要な情報に注目することができるように視覚機能高めすることにトライしてきました。
- ・J☆sKep2.6で、指示理解・セルフマネージメント・注視物の選択に注目するようにしました。
- ・聞き取った言葉を頭に留め置くことが苦手で、情報が処理しきれず、手が出てしまうこともありました。

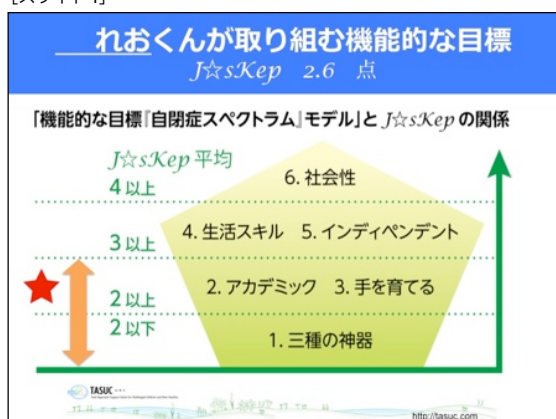
[スライド3]



[スライド3]

J☆sKep2.6～3.3になって、静態的システムから流動的システムのほうに移行しますが、実際は、学校生活の中で変更なども多く、常に流動的な環境にいます。

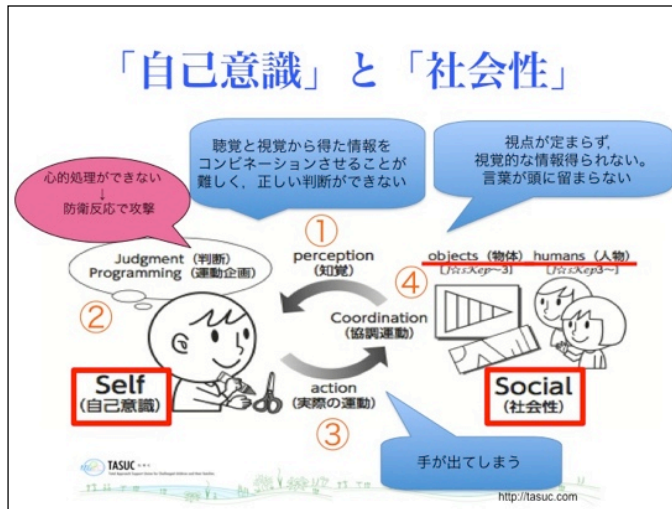
[スライド4]



[スライド4]

取り組む機能的な目標は、J☆sKepの点数から、「三種の神器」「アカデミック」は1st～2nd, 「生活スキル」「インディペンデント」「社会性」は1stに取り組みました。

[スライド5]



[スライド5]

### 【Perception first cycle】

「Perception」では、視点が定まらず、視覚的な情報が得られないので、言葉が頭に留まらない。そのため聴覚と視覚から得た情報をコンビネーションさせることが難しく、正しい判断ができません。それで心的処理ができないので、防衛反応として「攻撃してしまえ」と判断して、手が出てしまうことがあります。

手を出してしまったことで、相手も嫌な気持ちになりますし、れお自身も「たたいてしまった…」と落ち込んで傷ついてしまう。そんな風に、サイクルが正しく回らないという状態でした。

特に学習の中で見られたのは、新しい問題とか、足し算で少しパターンを変えて出題すると、しっかりと「見る」ことができないので、ぱつと断片的に目に入った情報しか取れず、さらに情報を留め置くことができないので、すぐに「やだ」と拒否をしたり、投げだしてしまうことがよくありました。

[スライド6]

### 療育の実践

～Perception～  
情報を入力しやすくするために、視点を定める練習に取り組んだ。

<教材>  
1. バランスボール  
2. バランスディスク

・週2～3回学びの基地で身体づくり  
・宿題で取り組む

[スライド6]

実際にPerceptionで取り組んだのは、情報を入力しやすくするために、視点を定める練習です。

### <教材>

1. バランスボール 2. バランスディスク

[スライド7]

ポイント  
◎ 今やること以外の刺激をなくす  
◎ 「○○を見て」と望ましい目標をあらかじめ伝えてから取り組む  
◎ できていることをフィードバック

バランスボールに座ってジャンプ  
上下にジャンプしながら、静止した対象を見続けることに取り組んだ。

センター南教室ができてからは、週に2～3回身体作りに取り組み、バランスディスクは家での宿題でも取り組みました。

[スライド7]

### 【バランスボール】

昨年のアセスメントのときは、正面にいる松永先生を見続けることも、姿勢の保持も難しかったです。

それ以降は、ボールに座って、上下にジャンプしながら、静止した対象物を見続けることに取り組

[スライド8]



バランスディスク（2012年のアセスメントにて）  
始めての時は、腰を支えてもらうことで視点を定めることができました。

[スライド9]



バランスディスク（2013年6月）  
自ら身体をひねりながら、静止した対象を見続けることに取り組んだ。

[スライド10]

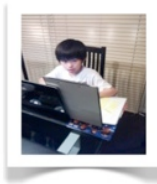
## 療育の実際

～Judgment・Programing～

情報を頭に留めおくことの練習に、  
取り組んだ。

<教材>

- 1.暗算
- 2.ブログ



TASU

http://tasuc.com

みました。

<ポイント>

- ◎今やること以外の刺激をなくす
- ◎「○○を見て（ex.お母さんの目を見て）」  
と望ましい目標をあらかじめ伝えてから取  
り組む
- ◎できていることをフィードバック（ex.足を閉  
じている、口を閉じているなど）

[スライド8]

【バランスディスク】

（2012年の動画）

初めての時は、身体をひねることも難しかった  
のですが、後ろから腰を支えてもらうこと  
で、視点を定めることができました。

[スライド9]

（現在の様子の動画）

トーマスが好きなので、トーマスのシールを  
母の指先に貼って、「これを見てね」と言うこ  
とで、視点を定めることができています。

[スライド10]

次にJudgment・Programingについてです  
が、情報に注目することと並行して、情報を頭  
に留めおくことの練習に取り組みました。



[スライド11]

## 暗算

1. 音韻のみの暗算 ○ (4音)

15+2

じゅう  
①

ご  
②

たす  
③

に  
④

2. 音韻のみの暗算 △ (5音)  
視空間メモがあると ○

34+2

さん  
①

じゅう  
②

よん  
③

たす  
④

に  
⑤

3. 音韻のみの暗算 × (7音)  
視空間メモがあると ○

34+25

さん  
①

じゅう  
②

よん  
③

たす  
④

に  
⑤

じゅう  
⑥

ご  
⑦

出題の前に、  
注意喚起がポイント

自ら読んで、  
視空間メモ+音韻ループの  
コンビネーションを意識

↓

5音の問題からスタート

- ・ 2音 + 2音 (20+15)
- ・ 3音 + 1音 (35+4)
- ・ 1音 + 3音 (2+36)

**ワーキングメモリに配慮し、音韻ループのみの問題と  
視空間メモ+音韻ループの問題に分けて、取り組んだ。**

## <教材>

### 1.暗算 2.ブログ

[スライド11]

暗算は、ワーキング・メモリに配慮し、音韻ループのみの問題と、視空間メモ+音韻ループの問題に分けて取り組みました。

#### 【例】

「15+2」と「34+2」という問題で、どちらも同じ「2桁+1桁」の問題ですが、「34+2」のほうを何度も聞き返してくることが多かったです。

「15+2」は「じゅう・ご・たす・に」と4音です。これだと音韻のみでできたのですが、「34+2」になると、「さん・じゅう・よん・たす・に」で全部で5音の問題になります。これだとちょっと難しかったり確実ではなかったりしたので、やはり何度も聞き返してきました。

次に、2桁+2桁の問題で、「34+25」になると、全部で7音の足し算になり、これは音韻ループだけでは難しく、視空間メモがあると解くことができました。

これで情報を留め置ける限界がわかったので、5音の足し算からスタートして取り組んできました。

同じ5音でも、「20+15（に・じゅう・たす・じゅう・ご）」という2音+2音の場合と、「35+4（さん・じゅう・ご・たす・よん）」の3音+1音、「2+36（に・たす・さん・じゅう・ろく）」の1音+3音とパターンがあり、パターンを変えると切り替えが難しかったので、2音+2音ならそれを続けて、次に3音+1音、1音+3音と出題し、最終的には全てのパターンを取り混ぜて計算をしていきました。

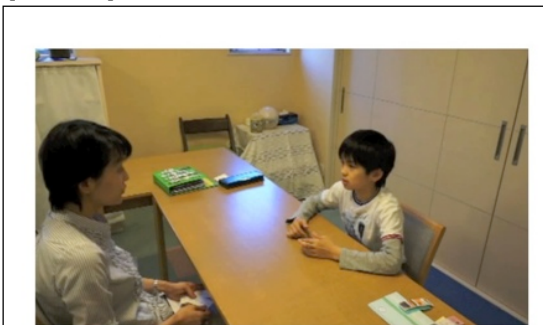
ここでのポイントは、まず出題の際の注意喚起です。

[スライド12]



(2012年のアセスメントにて)  
式を留めおくことが難しかった。

[スライド13]



(2013年のアセスメントにて)  
頭に式をとめおくことができるようになった。

目が合ったときに問題を言う、もしくは、れおのほうから「いいよ」と合図をくれたとき、もしくはこちらの方から「いい?」と確認をして、しっかり聞く態勢になってから問題を伝えるということに注意しました。

音韻のみの暗算が難しいのは、指示が聞き取れても計算ができない場合と、式自体が留め置けない場合があります。

「 $34+25$ 」のときには、『 $34+$ なに?』とか、『 $34+15?$ 』と、聞き返してきて、後ろの数を留め置くことが難しかったです。

その時は、カードを見せて、自分で『 $34+25$ は?』と読み、一旦カードを伏せるんですが、答えが出ると、『確認するよ』とカードを見せて、『 $34+25$ は59』と、式と答えを必ず読ませるようにしました。

[スライド12]

(2012年のアセスメントの動画)

[スライド13]

(2013年のアセスメントの動画)

昨年と比べると、式を留め置けるようになりましたし、先生のほうもしっかりと見るようになりました。

[スライド14]

① 単語入力  
(タブレット端末)



TO-MASU  
トーマス

◎自らつぶやくのは、難しいので、聞かせることから

◎留めおく時間を短くすると、眼の動きに配慮してタブレット端末

見る→留めおく→入力しやすい

② 2～3語文入力  
(タブレット端末)



BOKUHA TO-MASUGA SUKIDESU  
ぼくは トーマスが 好きです。

◎自らつぶやいて入力

③ 文章入力  
(パソコン)



◎文節ごとに読み上げ、留めおいて入力  
◎見本と同じに打ちこめたか確認

◎留めおく時間も長くなり、眼の動きも改善してきたため、パソコンで入力  
◎文節ごとにスラッシュを入れて、分かりやすくする

**スモールステップで、留めおく量を増やしていった。**

[スライド14]

次に取り組んだのはブログです。ブログはまず単語の入力から始めました。

イラストがあり、その下にアルファベット、その下に仮名を書いたものを使いました。

最初は留め置く時間を短くしてあげる配慮と、眼球運動で目をキョロキョロさせて情報を得ることがとても難しいので、目の動きにも配慮して、このときはパソコンではなく、入力する画面と、キーボードが一つの画面上にあるタブレット端末 (ipad) を使って入力を進めていきました。

次に、2～3語文ですが、これもipadを利用して、まず自分で文を読ませて、さらにつぶやきながら入力することを意識させました。

アルファベットでの入力もだいぶ慣れてきたと思いますし、留め置く時間もすこしずつ長くなって、それに伴って目の動きも少し改善してきたので、今年に入ってから、パソコンでのブログの入力を始めました。

内容については、ブログを書く直前のことしか書かないことが多いので、「学校のこと・家のこと」など簡単な選択肢を見せて、そこから選んで内容を書くようにしていました。

そしてブログを始めて半年以上経ち、最近は「今日これ書く!」「この写真使いたい」など自分から提案してくれることもあります。

入力に際しては、療育でいただいたフォーマット (いつ・誰が・どこで・どうした) を利用して下書きをさせていますが、これを直接入力するのは難しいので、私のほうで、文節ごとに区切って、わかりやすくなるよう清書をしています。

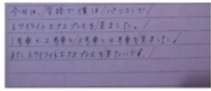
それをスラッシュごとに読み上げ、留め置いて、入力し、最後に見本と同じように打ち込めたか確認します。

このようなスモールステップで留め置く量を増やしていきました。

[スライド15]

### 指導してきた結果、今は…

- 視空間メモを活用できなかった時に、音韻ループが頭の中で消えてしまう。視空間メモと音韻ループのバランスを整えるために、2桁+2桁の2回繰り上がりのある足し算の式を聞いて、自ら筆算を書き、解くことに取り組んでいる。
- ブログでは、文節ごとにスラッシュをいれて、留めおいて入力することができるようになってきた。



TASU... http://tasu.com

[スライド15]

今は、暗算のほうは、2桁+2桁で繰り上がりが2回ある計算に取り組んでいます。かなり難しいです。視空間メモを活用できなかったときには音韻ループが頭の中で消えてしまうので、視空間メモと音韻ループのバランスを整えるために、式を聞いて、それを筆算で書いて、解くことに取り組んでいます。

ブログでは、文節ごとにスラッシュを入れて、留めおいて入力することを行っています。

[スライド16]

### 指導してきた結果、今は…

- 人や物によく注目できるようになった。
- 困った時、少し考えて行動するようになってきた。

電車に乗り遅れたら、次の電車に乗ろう！

- 嫌なことがあった時に、とっさに手がでず、考えることができるようになった。

「叩いたら、痛い」→「うん、痛いよ」→拳を下げる

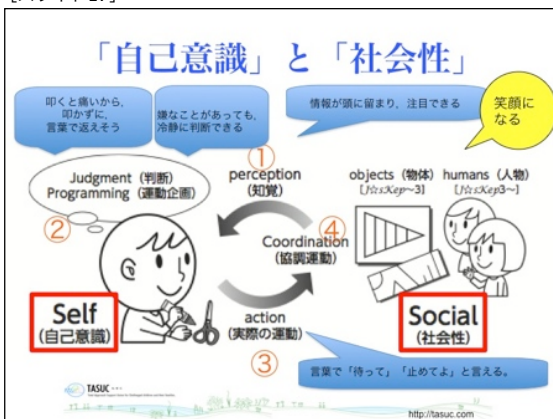
TASU... http://tasu.com

[スライド16]

#### 【指導してきた結果】

- ・人や物によく注目できるようになりました。
  - ・困った時、少し考えて行動するようになってきました。
- (電車に乗り遅れたら、次の電車に乗ろう！と切り替えられるようになったり、電車賃が足りなくなったときに、自分から「歩いて行くよ」と決めたり)
- ・嫌なことがあった時に、とっさに手がでず、考えることができるようになってきました。
- (「叩いたら、痛い？」→「うん、痛いよ」と聞くと→拳を下げる)

[スライド17]



[スライド17]

#### 【現在のPerception first cycle】

情報が頭に留まり、注目できるようになってきた

↓

嫌なことがあっても、冷静に判断できるようになってきた

「叩くと痛いから、叩かずに言葉で返そう」

↓

「待って」「やめてよ」と言える

↓

笑顔で分かり合える

というサイクルがうまく回るようになり、それが社会性にもつながって、伸びてきたと感じます。



これまで療育でやってきたことに加えて、センター南教室が近くにできたことで、この1年本当によく通いました。その取り組みのおかげもあったと思うのですが、*J☆sKep*の点数も思ったよりも伸びて、生活の中でも分かり合えることがとても増えてきました。

ただ、状況によっては冷静には判断できないこともありますので、これからは、あふれた時や、怒りをどうコントロールするかが課題になるので、これからもそれをふまえて、スモールステップでがんばっていききたいと思います。

【スライド18】



※「Perception first cycle」はTM（商標）です

## 質 疑 応 答

---

**Q.** 身体の改善とともに、情報の留め置きや、「見て」に応える時間もだんだん長くなってきたと思いますが、身体づくりと、「留め置く」サイクルと、どちらを重点的にやってこられましたか？

**A.** どちらも並行してやってきました。  
(学びの基地に通いつつ、家でも同じくらいの学習積み重ねていらっしゃった？)  
そうですね、身体づくりをしないと問題を見れないし、どちらかを重点的に、ということでは、できなかったと思います。

---

**Q.** おうちでも身体づくりや勉強をしてらっしゃると思いますが、だいたい一日どれくらのノルマを課してらっしゃいますか？  
(何曜日は何時間など)

**A.** 時間よりは問題数で決めています。問題の難しさによって、30分だったり1時間だったりするので、「プリント何枚」とか、ブログは毎日書こうとしています。

---

**感想.** れおくんのブログ毎日見えています。みんなにがんばってれおくんの療育をしていただいて、ありがとうございます！

## 発表を振り返って

「脳と体づくりがテーマ」ということで、お話をいただいたときは、テーマよりも人前で話すことが苦手で、思う事を上手く話せないで、とても悩みました。

ただ、れおの成長を実感出来たことと、これまでを振り返る良い機会だとも思い今回お引き受けしました。

れおが、小学校に入学した時、「自閉症の事は本を読んで勉強したので大丈夫です。」という年配の先生が担任となりました。その頃は、2語文程度でしたが、言葉は出ていたので、クラスでは視覚支援もほとんどなく、ほぼ言語指示でスケジュールも個別にはない環境の中で

「れおさんは、机にじっと座って学習ができない」

「指示が入らない」

「ガイドを受け入れられないので書くことを教えるのは難しい」

「もう1度や間違えの訂正が出来ない」などなど、

お母さんどうしましょうか？どのように指導しましょうか？という状態でした。

1年生の終わり頃には、学校を抜け出して、電車に乗り（無賃乗車）学校の最寄り駅から1つ目のセンター南駅近くにあるトイザラスに行きプラレールを抱えてレジに並んでいるところを、友人が見つけて保護してくれました。（その時に、友人の鞆を指差し「お金ならあります」と言ったそうです…）その後、何度も学校を抜け出すことを繰り返していました。

2年生になり、たすくに通っている友人の紹介で、たすくに入会しお世話になることになりました。療育を始めて5年目になります。今では、一人でパスモで電車に乗りトイザラスにも行くようになりました。

そして、入学した当時の担任の先生に言われた「机にじっと座って学習ができない」、「指示が入らない」、「ガイドを受け入れられないので書くことを教えるのは難しい」、「もう1度や間違えの訂正が出来ない」この力が、とても伸びてきました。これから、社会に出て仕事をする上で必要な力だと思います。

笹田先生の講演で、学習の土台となる体づくりの大切さのお話を聞き、体づくりに取り組んできたこの1年の成果と、これまでの積み重ねが、れおの成長につながったのだと感じています。

そして、講演で家庭での実践のコツもたくさん聞くことが出来たので、賢い身体づくりを目指して早速、夏休みに実践したいと思いました。

発表が1番目だったので、その後のプレゼンターの方々のお話をじっくり聞くことができて、自分も頑張ろう！と良い刺激をいただきました。

日々の生活の中ではまだまだ大変な事が多いですが、“続けることの大切さ”を改めて強く感じました。

スモールステップですが、新たな気持ちで頑張っていきたいと思っています。  
このような機会をいただき本当にありがとうございました。

プレゼンター ブーミンさんより